

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-211851

(P2000-211851A)

(43) 公開日 平成12年8月2日 (2000.8.2)

(51) Int.Cl.⁷

B 6 6 B 11/02

7/00

識別記号

F I

B 6 6 B 11/02

7/00

テマコード* (参考)

A 3 F 3 0 5

B 3 F 3 0 6

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号

特願平11-14616

(22) 出願日

平成11年1月22日 (1999.1.22)

(71) 出願人 000232955

株式会社日立ビルシステム

東京都千代田区神田錦町1丁目6番地

(72) 発明者 河本 一成

広島県広島市中区八丁堀5番7号 株式会

社日立ビルシステム中国支社内

(72) 発明者 郷古 洋

東京都千代田区神田錦町1丁目6番地 株

式会社日立ビルシステム内

(74) 代理人 100078134

弁理士 武 顕次郎 (外2名)

Fターム(参考) 3F305 BA02

3F306 AA02 AA07 CA07

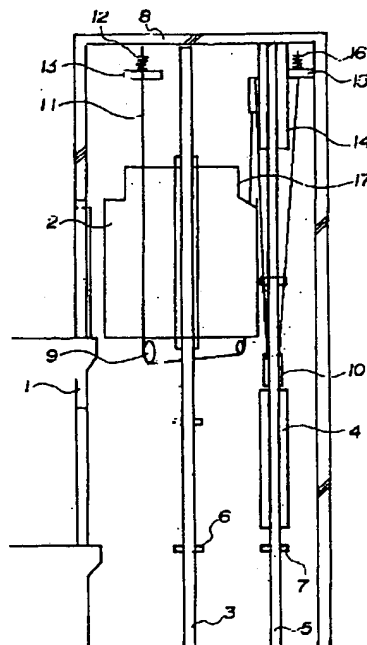
(54) 【発明の名称】 エレベータ

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、昇降路平面積を狭くすることを可能としたり、或いは、保守性を向上することができる。

【解決手段】 回転子からなる巻上機14の一部をかご2の通路に突出させ、かつ、前記巻上機14の突出部を避けるため、かご2の上部に凹部17を形成した。

【図1】



【特許請求の範囲】

【請求項1】 昇降路上部でかつ、昇降路壁間の空間に円盤状の回転子からなる巻上機を備え、この巻上機によって、前記昇降路内に設けられたかごとつり合いおもりとを昇降させるようにしたエレベータにおいて、前記巻上機の一部をかご通路に突出させ、かつ、この巻上機突出部を避けるため、かご上部に凹部を形成したことを特徴とするエレベータ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、階床間の人荷を運ぶエレベータに関する。

【0002】

【従来の技術】一般にロープ式エレベータにおいては、建物内に昇降路を形成し、この昇降路内にかごとつり合いおもりを配置し、かつ、建物の上に機械室を配置し、この機械室内に巻上機や制御盤が設けられていた。

【0003】このように、機械室が建物の上にあるため、日照権の問題を生じ、このような場合、油圧エレベータが主に据え付けられていた。

【0004】しかし、油圧エレベータの場合、その特性上、速度を速くすることができないという問題があった。

【0005】このため、近時、特開平7-10434号公報に示すように、円盤状の回転子からなる巻上機を、昇降路頂上部のかご通路からそれた上方と昇降路壁間に配置したものが提案されている。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】上記提案されたものでは、巻上機がかごからそれた上方と昇降路壁間の空間に配置されているため、昇降路平面積をこれ以上狭くすることができないといった問題があった。

【0007】また、巻上機と昇降路壁間の間隙も狭く保守しづらいといった問題もあった。

【0008】本発明の目的は、昇降路平面積を狭くすることを可能としたり、或いは保守性を向上することのできるエレベータを提案するにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】上記目的は、昇降路上部でかつ、昇降路壁間の空間に円盤状の回転子からなる巻上機を備え、この巻上機によって、前記昇降路内に設けられたかごとつり合いおもりとを昇降させるようにしたエレベータにおいて、前記巻上機の一部をかご通路に突出させ、かつ、この巻上機突出部を避けるため、かご上部に凹部を形成することにより達成される。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明の一実施の形態を図面に基づき説明する。

【0011】図1は本発明の一実施形態になるエレベータの全体概要図である。

【0012】図1において、昇降路1の壁には、かご2を案内するかご用ガイドレール3及びつり合いおもり4を案内するつり合いおもり用ガイドレール5がブラケット6、7により固定され、これらガイドレール3、5は昇降路1の底部から天井部8付近まで延設されている。かご2とつり合いおもり4には、それぞれのプーリ9、10を介してロープ11が巻回されている。このロープ11の端12は、昇降路1の上部部に固定されたロープエンド13に固定されており、かご2の下部のプーリ9に巻回されてから、昇降路1上部のつり合いおもり用ガイドレール5間に支持された円盤状の回転子からなる巻上機14に巻き掛けられた後、つり合いおもり4のプーリ10に巻回され昇降路1上部部に固定された他のロープエンド15にロープ11の他の端16が固定されている。従って、円盤状の回転子からなる巻上機14の駆動を介してかご2が昇降するように構成されている。

【0013】また、円盤状の回転子からなる巻上機14は、つり合いおもり用ガイドレール5間に支持されており、前記巻上機14はかご2の通路に突出されている。17は前記巻上機14の突出部を引けるため、かご上部に設けられた凹部である。

【0014】以上のように構成されたエレベータにおいては、回転子からなる巻上機14をかご2の通路に突出させ、かつ、かご2の上部に凹部17を設けることにより、昇降路1の平面積を狭くすることを可能としたり、保守性を向上することができる。

【0015】

【発明の効果】本発明によれば、昇降路平面積を狭くすることを可能としたり、或いは保守性を向上することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態となるエレベータの全体概要図である。

【符号の説明】

- 1 昇降路
- 2 かご
- 3 かご用ガイドレール
- 4 つり合いおもり
- 5 つり合いおもり用ガイドレール
- 8 天井部
- 14 回転子からなる巻上機
- 17 かご凹部

【図1】

【図1】

